

横浜市立大学データサイエンス学部の設置について

横浜市立大学は、平成30年度のデータサイエンス学部開設に向け、4月27日文科科学省に設置届出を行いました。

近年、社会の様々な分野で急速に蓄積が進んでいるビッグデータの利活用を推進するため、医学・理学・経済学など多様な応用分野を持ち、融合型の教養教育を実践してきた市大の強みを活かし、データから新たな価値を創造するデータサイエンス人材の育成に乗り出します。

1 学部の概要

名称：データサイエンス学部データサイエンス学科

定員：1学年60名（収容定員 240名）

学位：学士（データサイエンス）

入学者選抜：一般選抜(前期・後期)、指定校推薦入試、AO入試、その他(海外帰国生・国際バカロレア・科学オリンピック・外国人留学生・社会人)

2 学部の特徴

(1) 首都圏初のデータサイエンス学部

- ・日々蓄積される膨大なデータから未来を拓くデータサイエンス人材を横浜から輩出
- ・首都圏の医療活動や経済活動等の展開に伴って蓄積されるビッグデータやオープンデータの利活用

(2) 医学部、国際総合科学部を有する総合大学としての基盤

- ・課題発見・解決力の養成に取り組む文理融合型の学部教育を実践してきた実績
- ・医学、生命科学、理学、経済学、経営学、社会学など、データサイエンスに展開できる多様な応用分野

(3) データサイエンス人材に不可欠な現場実践力を養成するカリキュラム

- ・統計学、計算機科学をベースとしたデータサイエンスの専門教育に加え、文系・理系の枠組みを越えた教育カリキュラムを提供（文理融合）
- ・企業や医療機関との連携を通じたPBL(Project Based Learning、課題解決型学習)により、実務を体験し、データが発生する「現場」の知識を学びながら、同時にデータ分析を通じたコミュニケーション力や課題発見・解決力を培う演習を豊富に用意（現場重視）
- ・TOEFL-ITP500点相当以上を3年次への進級要件とした英語教育を課し、世界で活躍するためのコミュニケーションレベルを修得（国際水準の英語力）

（裏面あり）

カリキュラムのイメージ

1年次	2年次	3年次	4年次
<p>横浜市立大学特有の 共通教養教育 + データサイエンスの 基礎科目</p>	<p><専門性を高める> データサイエンスに 関連する講義 + 応用分野の講義を履修</p>	<p><研究室・ゼミ配属> 設定した研究に取り組む 演習を通じ、応用分野の “現場”に入り込む</p>	<p><卒業研究> 研究をさらに深化させ、 卒業論文を作成する</p>

3 想定される卒業後の進路

- ・金融関係 【データコンサルタント、データアナリスト】
- ・IT企業、製造業 【製品開発、データマイニングエンジニア】
- ・広告代理店、総合商社 【アカウントマネージャー、マーケティング担当】
- ・製薬メーカー、大学病院 【臨床研究専門家】
- ・地方公共団体 【オープンデータに基づくアナリスト】

4 今後のスケジュール

- 29年6月末 文部科学省への設置届出内容の審査終了（届出から60日以内）
- 9月 第3回市会定例会 中期目標の変更議案提出
- 10月～11月 特別選抜入試（指定校推薦入試、A0入試、その他（海外帰国生・国際バカロレア・科学オリンピック・外国人留学生・社会人））
- 30年2月～3月 一般選抜入試（前期・後期）
- 4月 学部開設